



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030
伊原 忠 ☎047-488-7207
飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党
八千代市議団
ホームページ
<https://jcp-yachiyo.jp>



日本共産党八千代市議団メール：kyousan@jcp-yachiyo.jp

第651号
2024年10月7日

発行
日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5

八千代医療センターの常勤医・看護師不足問題 呼吸器内科・血液内科診療が再開へ

本年9月13日、服部市長より市議会議員あてに、八千代医療センターでの血液内科・呼吸器内科の新規患者の受付再開についての文書が届きました。

その文書では、血液内科については、毎週月曜日午前(第5月曜日を除く)及び第2火曜日午前、診察枠は9時から12時まで1ブース(30分に2枠)とし、9月10(火)より再開。

呼吸器内科は毎週金曜日午前、診察枠は9時から12時まで1枠(枠数については調整中)とし10月4日(金)より再開するとのこと。

日本共産党は、3年前に呼吸器内科など5つの診療科目が休止したことは、八千代市と医療センターが取り交わした協定書に違反するとして、議会内外で再開を求めてきました。一部とはいえ再開にこぎつけたことは、市民の粘り強い運動と願いが八千代市と医療センターを動かしたのではないのでしょうか。

しかし、残念ながら「リュウマチ・膠原病内科」は未定のままです。再開に向け八千代市と医療センターに今後も働きかけていきたいと思えます。



常勤医・看護師不足問題の解決を

そもそも、医療センターの医師・看護師不足の背景は、東京女子医大での医師や看護師の労働条件の切り下げ、特に、経営悪化を理由に一時金のカットを打ち出したことから医師・看護師の大量退職につながりました。

この影響は、八千代医療センターにも及び、この間、常勤医が58人の減(2020年度以降)、看護師では66人の減となっており、登録医でしのぐという事態となっています。さらに深刻なのは、救急医療にかかわる体制が脆弱になっていることです。救急車で医療センターへの搬送をお願いしても断られ、他の病院へ搬送されています。2018年には、5,627人を受け入れていたのに、昨年度2023年には4,200人と1,427人も減っています。市民のいのちと安全が脅かされる事態となっています。

市民の声が届く地域医療協議会(仮称)を

八千代医療センター運営協議会規定第2条(目的)「協議会は東京女子医科大学附属八千代医療センター(以下{病院}という)の運営に、八千代市民、地域医療関係者等の意見を反映させることを目的とする」とあります。

ところがこの間、5つの診療科目が休止に追い込まれているのに、運営協議会が市民の不安にこたえようとはしてきませんでした。

日本共産党は、市民の声が届き反映できる協議会とするために、(仮称)「地域医療協議会」の再開を求めてきました。

市民の声をさらに広げましょう

市民団体(市民が主役の市政を実現する会)はこの間、学習会や講演会を開いて、医師・看護師不足を解決させるために市長交渉や県交渉を行ってきました。そのための署名活動にも取り組んでいます。7月～10月は、日曜日ごとの各駅頭署名にも取り組み5000筆を目指しています。日本共産党市議団はこの署名運動に賛同しています。ご協力をお願いします。